

(様式 5)

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立高岡工芸高等学校・教諭・井村 笑子
- 2 研修期間 令和6年7月25日(木)
- 3 調査研究課題 教師と企業人との交流から「人間力」をもった生徒の育成につなげる。
- 4 研修機関等 富山経済同友会
- 5 研修の概要 講演会やディスカッションを通して、教師と企業人とが交流を図り、そこから得られる「気付き」を共有することで、互いの視野を広げる。

(1)「人間力について考えよう！」 講師 株式会社MGG 代表取締役社長 牧田 和樹 氏
牧田氏の経営におけるこれまでのご経験に基づき、人間力形成のために必要な要件についてお話をいただいた。人間性、知性、意欲を総合的に持ち合わせる事が人間力の形成につながる。例えば人間性(人間関係)の構築には「思いやり」や「人脈」が必要であること、意欲を高めるためには自己効力感が必要であること、そして、それらを得る方法について教えていただいた。また、「人間力は伝搬する」というお言葉が強く印象に残っている。私たち教員の人間力は良くも悪くも生徒に様々な影響を及ぼす。そのため、思いやりや責任感をもって行動することを日頃から心がけるとともに、本研修のような機会を通して企業の方々との人間力に触れ、自身の人間力の醸成につなげていきたい。

(2)「自分らしく働く」 講師 YKK株式会社 副社長 黒部事業所長 小林 聖子 氏
小林氏によるご講演では、「良く学び、良く働き、良く生きる」ために意識すべきことについてお話をいただいた。小林氏は様々な困難や転機に直面なさっても、物事をポジティブに捉え行動に移してこられた。「自分はこんなことをやりたい」と言葉に出す先に実現があり、「なりたい自分」を思い描くこと、そのためには自分について知ること(何が出来るか、何に価値を感じるか、何がやりたいのか)が必要であると教えていただいた。また、生徒に伝えて欲しいこととして、「よく学びよく遊ぶ」、「語学を含んだ異文化経験」、「言語化能力の向上」、「自分自身のことを知る努力」をあげられた。自己理解を図りながら、生徒のキャリア形成に向け、上記の内容を意識した指導を心がけたい。

(3)「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。」
講師 株式会社ユーグレナ 代表取締役社長 出雲 充 氏
起業家である出雲氏からは、起業に至る経緯やその過程、先の展望等についてお話をいただいた。貧困からくる栄養失調という世界的な問題に目を向け、研究を重ねてこられた出雲氏のご講演は大変刺激的なものであった。大学生の時にバングラディッシュを訪れ、そこで感じた問題意識をその後の研究へと発展させ、解決方法を探り、行動に移す、地道な研究の末に掴まれた成功の裏には、多くの困難と努力が共存していた。また、日本の起業の実情に関しては、若者の挑戦を応援する日本を目指し、大学発のスタートアップが必要であると教えていただいた。最近では大学側のスタートアップに対する取り組みも前向きに変化してきたという。日本での起業が少ない原因として、「失敗に対する危惧」や「身近に起業家がない」などとともに、「学校教育」があげられた。次は、中学校や高校が変化すべきであるとのお話を受け、挑戦することや失敗することに対して物おじしない教育が必要であると改めて感じた。

講演会後、企業の方を交えて、参加者がグループに分かれディスカッションを行う時間も設けられた。ディスカッションでは、講演会での気付きや各校の課題などについて意見を交わすことで、新たな発見や学びを得ることができた。

本研修では、変化を恐れず、率先して行動に移す講師の皆様の姿が印象的であった。自身を振り返る場面も多く、現状に満足することなく、学び、挑戦し続ける姿勢を大事にしたいと感じた。今後も、人との出会いやつながりを大切に、自己研鑽を積み重ね、自身が学び得たことを子どもたちに還元できる教師を目指したい。

最後に、このような貴重な機会を設けてくださった富山経済同友会並びに富山県教育委員会の皆様に感謝申し上げます。